

わたしは、8月5、6日に行われた東京研修に参加し多くのことを学びました。研修の内容としては、東京のオープンキャンパスに参加することと、企業訪問でした。

まず、一日目に行われた企業訪問でわたしは新日鐵住金さんのほうへ行きました。事前にパンフレットなどを読んで簡単な仕事内容などは理解していました。鉄の製造を行っているということで、はじめはそこまですごい会社だとは思っていませんでした。しかし、若林先生がこの会社に訪問できることはすごいことだ、これはとてもよい経験になるとおっしゃっていたのを聞いていろいろな考えを持ちつつもどんな会社なのか、しっかりみてこようという気持ちで訪問に向かいました。まず、始めに驚いたことは新日鐵住金さんの本社がある場所でした。たくさん的高層ビルが立ち並ぶなかに、それらに負けなくらい高いビルが本社だと知ったときは、このようなところで働いてみたいと思ったほどでした。ビルのなかに入ってみると、明るくきれいで、ドラマなどに出てくるオフィスのように、立派な会社は仕事内容だけでなく、その他のところまで素晴らしいのだと思いました。会議室に通され、私たちは会社の広報部のかたによる、会社説明会を聞き、OBのかたによるそれぞれの仕事内容の説明や仕事を通して自分が感じたことや考えたことを教えていただきました。仕事内容のお話を聞いていて、わたしはこの会社のことをしっかり理解できていなかったということを改めて感じました。わたしは、鉄がどこに、どのようにして使われているかを意識したことはありませんでした。しかし、私たちの身の回りにもたくさん鉄が使われているということを知り、鉄の重要性を知りました。新日鐵住金さんは日本で鉄の生産量が一番で、さらに、世界的にみても生産量の大部分を占めていると知り、話を聞くまでわからなかった、この会社の素晴らしさを知りました。OBの方のお話では、広報部の方や技術者、営業を行っていた方などがおり、さまざまな面から仕事の内容を知ることができました。広報部では、会社の取り組みを外部に伝えたり、意外だった仕事は会見のときなどに使う、会社の名前が入ったパネルを用意することです。広報の仕事はあまり目立たないため、どんな仕事をしているのか想像もつきませんでした。会社にとって重要な仕事を担っているということも知ることができました。

次に私たちは、グループごとに別れて、各自アポをとった企業に訪問をしにいきました。わたしたちは、将来、国際系の仕事につきたい人たちが集まっているグループだったので、中国大使館に行きました。今までのわたしの、中国にたいしてのイメージはあまりいいものではなかったのですが、中国大使館について私たちが笑顔で歓迎してくれた交流部のかたたちをみて、少しだけ中国に対するイメージが良くなりました。まず始めに、私たちは中国大使館についての説明を受けました。中国大使館には、ここにすんでいる大使の方たちが体を鍛えるためにプールやテニスコートが設置されていました。また、立派な庭もありました。施設を案内してもらったあと、私たちは交流部の方たちに質問をしました。私たちが異文化によく触れる大使館の方たちにしつもんしたかったことは、外国の方と関わる時に大切になっていることはなにかということでした。この質問にたいして、大使館の方の答えは、お互いの文化を理解するということでした。

大使館は日本にあっても、その土地のなかは中国の土地となっています。そのため、大使館の方々は中国の法律と日本の法律の両方に従わなくてはならないそうです。ですから、お互いの法律を理解しておくことが、とても大切になってきます。また、日本との友好な関係を維持するために交流部として行っていることがありました。それは、将来を担う日本と中国の学生たち、60名が交流するということです。若い世代が、お互いの国の本当のことをすることは、これからも日本と中国の友好関係を維持していくうえで大切になっていくと感じました。今回の中国大使館への訪問でとくに驚いたことは、案内してくれた交流部の方々の日本語能力でした。わたした



ちが、日本語で説明したことに対する的確に返答をしてくださいました。そこで、どこで日本語を学んだのかを聞いたところ、日本にながく住んで、日本語に多く触れていれば身に付くとおっしゃっていました。それを聞いて、わたしもその国の言葉がしゃべれないからといって、せつかくの他文化との交流を無駄にすることがないように、言語が話せなくても様々なことに挑戦していきたくと思いました。そして、中国大使館の方々の訴えがありました。それは、テレビなどでの報道で得られる情報がすべてではないということ、知っておいてほしいということでした。日本で報道される中国の情報のなかにはあまり良いと思われないものもあります。ですが、それは中国のほんの一部であって、中国には悪いところばかりではなくいいところもたくさんあります。悪いところばかりを見るのではなく、よいところもたくさんあるのでそこを見つけてほしいということでした。見つけていくうちに、中国のことをもっと理解していくということにも繋がっていくと、わたしは思います。大使館の方々も、日本に来て自分の故郷である中国がどのような国なのかを、客観的に見れるようになったとおっしゃっていました。とくに、日本と比べると劣っていることもあるということに気づき、交流部として行動していきたくもおっしゃっていました。そして最後に、国を知るためにはその国の美食を食べることが、一番の方法だともおっしゃっていました。常に、他文化に触れている方々の言葉だったので、とても納得しました。このようなことから、他の国を知りたいときにはなんでも多くの視点から見ていくことが大切だと学びました。

次にわたしたちが行ったのは、東京大学のオープンキャンパスへの参加でした。わたしたちは、法学部と日本政治外交史の模擬講義を受けました。わたしたちが、講義をうけるために入った教室は、テレビで東京大学の入試の映像で写っている部屋だそうで、とても広かったです。今回、私たちが受けた講義の形は、先生がステージの上にとって、したにいる多くの生徒に向かって講義をするというものでした。先生がマイクを使ってしゃべっていることや、多くの生徒のなかで勉強しているということが、とても、新鮮で緊張しました。講義はわからないことも多くありましたが、レベルの高い授業を聞くことができよかったです。また、最後の質問の時間に一緒に講義を聞いていた人がすばらしい質問をしたときは、この大学はほんとうに頭のいい人が集まるんだなと実感しました。また、東京大学の敷地のなかを歩いてみると、あまりの広さに驚きました。中学校や高校とは違って、全国から人が集まってくるとはこういうことなんだと実感しました。また、有名な安田講堂や赤門も見ることができて、今までよりも、大学というものを身近に感じることができるようになりました。しっかりと早めに志望校を決めていかなければならないと思いました。

今回の東京研修を通してわたしは、自分の将来について考えることの大切さを様々な方から教えていただきたい、感じたりしました。何事も、目標があれば、それに向かってがんばることができるし、なにより、その目標を諦めそうになったときにあと少し踏ん張る力を与えてくれます。今のうちに、多くのことを知って、多くのことを経験し、将来の選択肢を増やしていけたらなと思います。研修に行くにあたって、様々な計画をたて、私たちに学びの場を与えてくださった先生方や企業の方々にとっても感謝しています。ほんとうに、ありがとうございました。

